

臨床研修・専門研修ワーキングにおける報告事項と主な議論について

1 全体概要

令和7年7月16日に令和7年度第1回臨床研修・専門研修ワーキングを開催し、県内の臨床研修医および専攻医の採用状況やこれまでの専攻医確保の取組状況等について事務局から報告を受け、今後の専攻医確保に向けた取組について議論した。

2 報告事項

(1) 臨床研修医の状況

- ・ 令和7年度研修開始の臨床研修医数は154名で、目標の170名達成とはならなかったが、過去2番目の人数で引き続き高い水準を維持
- ・ 新大生は、前年比+13名の73名で過去最多タイとなり、課題の新大生の定着に一定の成果（これまでの過去最多は平成30年度の73名）

(2) 専攻医の状況

- ・ 令和7年度専門研修開始の専攻医数は106名で、前年度の101名から増加
- ・ 一方で、臨床研修開始の2年前の研修医数147名からは▲41名減少

(3) 専攻医確保の取組状況（令和6年度の実施状況）

令和6年度の本ワーキングにて決定した取組について、ほぼ全て着手できており、引き続き関係者や研修医への周知に努め、実績を重ねていくこととする。

1. 臨床研修医一人ひとりへ情報を届ける仕組の構築
 - ・ 研修医一人ひとりへ手渡しで届ける体制（臨床研修病院の窓口担当の共有）
 - ・ 県を仲介した情報発信（研修医のメールアドレスを県で一括管理）
2. 専門研修プログラム説明会の臨床研修病院での開催
 - ・ 専門研修PGの説明会を臨床研修病院に出張して開催（県が仲介して調整）
 - 【実績（R6.7～R7.7）】4回開催（新潟大学血液内科1回、新潟市民病院外科3回）
3. イベント参加者の把握
 - ・ 専門研修PGの説明会等の開催・参加状況を毎月調査し、病院等と共有
4. 専門研修プログラムの紹介スライド作成
 - ・ 専門医取得後のキャリアパスも示した1枚スライドを作成してPR
5. 圏域別セッションの開催（地域が一体となった医師育成の仕組みづくり）
 - ・ 二次医療圏単位での専門研修プログラム創設等
 - 【実績】上越圏域で総合診療領域の「新・家庭医療専門医プログラム」を新設
6. 専攻医獲得セミナーの開催 → 未開催（令和7年度に開催予定）
 - ・ 専攻医獲得に成果を挙げた事例等を共有するセミナーを開催

3 議事概要

今年度の第1回地域医療対策協議会で合意した今後の専攻医確保の取組みの方向性を踏まえて事務局が提案した具体的な取組について協議を行い、事務局案のとおり取組みを進めることを確認した。

(1) 事務局提案

1. 情報発信

- ・ 関係者への周知強化、研修医の選択行動に影響を与える時機を得た発信 等

2. 専門研修プログラム出張説明会（スマートガイダンス）

- ・ 臨床研修医確保にも資する広報展開（開催病院のPR） 等

3. 地域で医師を育てる仕組みの構築

- ・ 上越圏域以外での展開 等

4. 専門研修プログラム合同説明会

- ・ 専門研修プログラムのオンライン合同セミナーの開催 等

5. 専攻医獲得セミナー

- ・ 専攻医獲得に成果を挙げた事例を共有するセミナーの開催

(2) 委員意見

新潟県での専門研修を選択してもらうには、研修医へしっかりと情報を届けていくことや、県内の病院・診療科が同じ認識を持って一緒になって取り組みを進めること、地域内の病院が協力し合いながら魅力ある専門研修プログラムを作っていくことが重要といった意見が主に挙げられた。

1. 情報発信

- ・ 研修医一人ひとりに情報を届けるシステムが、医局の現場に認識されていないようなので、周知に努めていただきたい。
- ・ 新潟大学卒業生や新潟県出身者など新潟県と繋がりのある研修医等にも情報をしっかり届けて、戻ってくるチャンスを広げていただきたい。
- ・ 各診療科のセミナーの開催状況を一目で把握できるように、カレンダーにまとめて見える化して発信してはどうか。

2. 地域で医師を育てる仕組みの構築

- ・ 総合診療の専攻医が増えたのは、地域で総合診療医を育てようと多くの病院が一緒になって取り組んだ結果だと感じている。こういった枠組みを他の診療科に展開していければと思う。

3. 専門研修プログラム合同説明会

- ・ 臨床研修とは違って専門研修は診療科ごとに対応しないといけないため、個別の丁寧なフォローができる仕掛けが必要ではないか。

4. その他

- ・ 県外選択の分析を行い、皆で共有して手立てを講じていく必要がある。
- ・ 内科が減少しているなど診療科の偏在がある。県のように全体を俯瞰できる組織が、県全体として今後必要となる診療科を見通して、その科を重点的にリクルートしていく方策も必要ではないか
- ・ 専門研修は大学中心で行うべきと思うが、市中病院ができることを考えると、やはり、魅力ある専門研修プログラムを作ることだと思い、長岡赤十字病院では、新潟市民病院やがんセンターなど複数病院と連携して消化器内科のプログラムを新設して内科に進む研修医を増やそうと取り組んでいる。
- ・ 他県出身者で、新潟県に残った人を振り返ると、研修した病院・診療科で良い初期研修ができたからという方が多いと思う。良い研修を提供すること、それ以上でもそれ以下でもないかなと思っている。
- ・ 研修医や専攻医を増やしていくために研修の充実が必要だが、研修コストが負担になっており、受け皿の拡大が難しい病院が多い。